

富山県高等学校教育研究会

情報部会長 辻 直史

携帯電話やインターネットなど、情報関係の機器の進歩には目を見張るものがあります。使わずに過ごすことは不可能の時代になってきています。しかし、それらを用いた新しい社会問題が数多く起こっていることも事実です。人類が自分たちの社会や生活を便利にしようと開発し、社会に貢献するべき機会が、逆に社会に問題を起こしているようです。

これからの社会は情報を持つものと持たないもの、検索できるものとできないものの2極化していくように思っております。教科『情報』はコンピュータの仕組みや使い方を学ぶだけでなく、社会にあふれている情報の、より効果的な使い方や検索方法を知ることにより、生徒がこれから情報社会で生きていくための知識を身につける教科です。しかしそればかりではなく情報化社会に参加する態度、マナーを身に付け、情報モラルの重要性についても教えて考えさせることは重要なことです。

高等学校教育研究会『情報部会』では、研究発表大会で「情報社会における心構え」や「グラフ化とシミュレーションの授業実践例紹介」などの発表や、本年度参加した、全国大会参加報告などの報告などを行いました。また総会や研究発表大会では、それぞれの学校での『情報』での各校の取り組みなどを、小グループで話し合い、お互いに有意義な意見交換を行うことができました。

これからますます教科情報の役割が大切なものとなって行きます。生徒諸君がより安全で効果的に情報に向き合うことが求められています。少しでも効果的な指導ができますよう研究を深めて行きたいと思えます。

終わりにになりましたが、指導助言をいただきました、県立学校課、総合教育センターをはじめとして発表された会員および各先生位に感謝いたしまして、あいさついたします。